

はぐくむ光のびる若芽

140

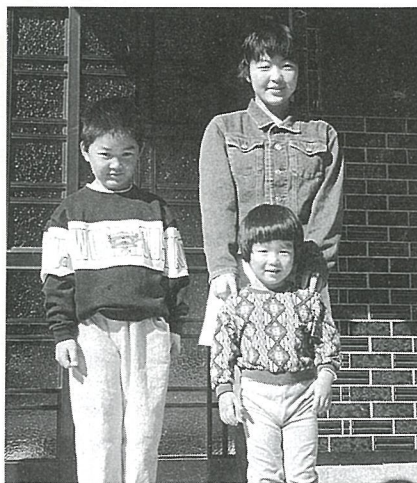
小田部 志田敏子

子育てを始めてあれよあれよと言つ間に12年が過ぎた。長女の真里子は小6。しつかり者で勝負気自我が強く、良く怒る。長男の勤は小3。とてもおんびりマイペース型。気がやさしく友達思いでひっこみ思案。次男の誠は12月で満3才。人見知りせず、人なつこくよく気の回る活発な子になりつつある。

長女と次男は9才の年の差があるにもかかわらず、お守りしているのが、けんかをしているのかわからないことがある。また、長男も次男を遊び半分に泣かせたりして、こちらがイライラするのとまたびたびある。長女と長男の二人に鍛えられて、次男はたくましく強い。大物になるかもしれないと、親ばかりも期待したりする。早く子育てを卒業したい。早く自分の時間を持

きたい。静かで落ち着いた日々はいつたいつになつたら...。そう思う反面、お母さん、お母さん」という子供たちの声が聞かれるのが、花なのかもしれない。人生はつかの間の夢かもしれないが、出産、育児をしれないが、

3人の子供は、大切な宝



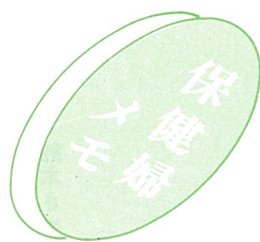
経験した女性は、人生が大きく変わる。子供をもつこと、子供を育てること以上に生きた証となるものがあるだろう。しかしながら子育てはなかなかやっかいなもので、3人目を育てている今でも思うようにはいかない。私ひとりの力ではとても育てられない。

ふり返ってみると、失敗

ばかりの育児で、上手にしつてもできなかった。心かけたこと言えば、子供を感情で怒らない。あまりしからない。たまたたり、ぶつたりしない。幼稚園に入る3才までは自分の手の中で育て、だつこやおんぶをしてスキップに心かけた。3

才まで、子供との時間を過ごせたことは、とても幸せだったと思う。3人の子供は、我家の大切な宝。みんな健康で、いつまでも兄弟仲良く、そして、それぞれの道をそれぞれの力で切り開き、たくましく生きてほしい。

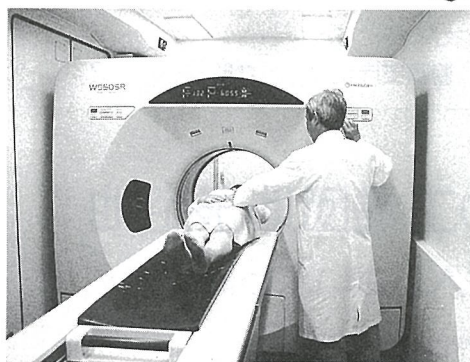
◎長びく「せき」は要注意!



冬は風邪などにかかりやすい季節ですが、せきが10日以上も続くようなときは進んで受診し、結核になっていないかどうか調べてもらうことが大切です。以前は「国民病」と恐れられた結核も今では「昔の病気」と考えられつつありますが、現在でも毎年約4千人の方が死亡し、一年間に新たに結核になる人は、約5万2千人にものぼっています。町でも平成6年に新たに結核になった方は4名あり、住民検診でも発見されるなど、まだまだ油断できない病気の一つです。



C T 付き検診車発進!!



◀ 4〜5分の検査時間で、その場で診断できます。

◎肺がんの早期発見を

集団検診にCT車誕生

喫煙者の肺がんの半数は早期から「せき」などの症状が出ます。せき、血痰など症状が出るときは、たんの細胞を調べてもらうことが大切です。また、非喫煙者の肺がん、女性の肺がんの大部分は、なかなか症状が出ませんし、症状が出てからでは治療が難しくなることがあります。

結核・肺がんの早期発見のためには、症状が出る前から、年一回のレントゲン検査が大切です。今年度の住民検診(胸部レントゲン検査)は、病院、保健所等で受けられますようお勧めします。

(写真)

このCT装置では、見つけにくい小さな肺がんまで発見できます。まだ今年一回も検査を受けていない方は、病院、保健所等で受けられますようお勧めします。